

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
 (Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

人文社会科学分野の相関索引作業を終えて

京大相関索引研究グループ

私たち京大索引研究グループ（柴田、浜口、船越、橋本、多田）が、「人文・社会科学分野における相関索引」を手掛けたのは、今から10数年前のことです。きっかけは、当時グループ全員が洋書目録に関わっており、分類作業の際、役にたつツール（例えば分類規定のようなもの）がなく、担当者の主観によって分類され、分類作業に一貫性がなく、皆が困っていたこと、翻訳された洋書関係の相関索引が国内になかったことなどから、私たちグループは仕事に直接役立つ独自の相関索引の作成を思いつきました。たまたま、京大附属図書館では、新館建設を期に、従来使用していた独自の分類表から、NDL（国立国会図書館）の分類表への切り替えを決定したということもありました。こうした状況のなかで、私たちの作業も、法学部洋書分類表、NDC、DC、にくわえてNDL分類への変換も可能な柔軟性のある相関索引作成を目的として、基本方針、作業手順等を決定しました。準備期間として、（相関）索引に関する資料を探して読んだり、分類表（NDC、NDL、DC）、件名表（BSH）についての学習をしたり、着手した当時のことは、今考えてもこんなに難しいことをよく勉強したものだといながら感心するくらいです。

10数年という長い年月は決して平坦ではなく、様々な曲折がありました。気分転換もかねて、グループで海外旅行や食べ歩きに出かけたこともいい思い出でもあり、活動を継続するための活力にもなったと考えています。

また、大図研の人たちの勤めで広島で開催された研究集会で発表させてもらったり、励ましの言葉をいただいたりしたことで、ゆるみがちな気持ちを引き締めることができたこともよかったと思っています。相関索引に関しては、多くの問題点を残しながら一応、作業を終了することができました。現在、DCに相当する部分が空白になっており、この部分を補充する必要があります。今回もまた大図研の人たちの協力で

目次

人文社会科学分野の相関索引作業を終えて （京大相関索引研究グループ）	1頁
第3回大学図書館員京都研究集会特集「感想文編」 （酒井忠志、小林直子、片山理子）	2頁
近畿5支部新春合同例会のご案内	6頁

DCの理論について学習することになり、堤氏にお願いして数回にわたり、詳しく報告してもらいました。新たに3名の人が加わってもらい、DC(人文・社会科学分野のみ)の翻訳をし、相関索引のリストを完成し、パソコンに入力する予定です。振り返ってみると私たちグループのメンバーも定年に近い人たちのほうが多くなってしまいました。10年もの歳月を費やしたのだから、もう少しましなものができなかったのかという気持ちも正直、なくはありません。しかし、今日のようにコンピューターが普及し、検索も自在にできる時代になにを今更、分類や件名かと思われがちですが、今いちど、図書整理の原点に立ち返って、目録や分類、あるいは件名についての理論学習をする必要があるのではないのでしょうか。その意味でも私たちの作業は、決して無駄ではなかったと確信しています。

(文責・柴田正子)

第3回大学図書館員京都研究集会特集・PART II 「感想文編」

研究集会回想記

酒井 忠志

つい先頃、永六輔が森繁久弥との対談のなかで(NHK)、『大往生』の記述について「聞いたことをそのまま記録するのではなく、しばらく時間を置いて記憶に残ったことを書き綴った」というような趣旨を話していた。私は今まで研究集会などで心に懸かることがあると、すぐにメモなどを作るようにしていたのだが、今回は意図的にしばらく時間をとってみようと考えた。永六輔の話聞いて、似たようなことを考えるものだった。ところが、しばらく時間を置いてみると、研究集会の内容はもとより、原稿を依頼されていることまですっかり忘れてしまっていた。わずかに残った印象を書き止めてみる。

利用者教育に関する京都の研究集会は、周到な準備がされた結果、支部主催の研究集会としては大盛況であった。これが第1の印象。第2は、研究者だけではなく、現場の図書館員の報告が用意され発表されたこと。過日、日図研の図書館の自由に関するシンポジウムを覗いたことがあるが、その時はOBと大学の先生ばかりの発表であった。一昔前にはどこへ行っても現場からの報告が多かった。この変化は良いことなのか悪いことなのか、一概には言えないが、私個人としては随分がっかりしている。その点、大図研の研究集会は快い。

利用者教育の研究集会に参加した私の立場は、そのことが図書館員の専門性の内実の根幹に関わると考える側面からであった。かつて、電算化の出発となった学審答申が出た当時、ある学者が今後の大学図書館員のあり方について、自動車教習所の指導員のようになると発言したことがある。大城さんの基調報告を聞いて、そのことを思い出した。第一段

階から第三段階（オリエンテーション、一般的情報探索、専門的情報探索）まで、段階的に進む。自動車教習の場合も3段階の各段階でしっかり見極めがあり、全てを終わらなければ免許はとれない。カリキュラムの内容も全国で画一的に確立している。現象としてはよく似ていると思った。

しかし、両者は同じではない。どこが違うのかが異なるのか。思いつく点のひとつは、教育対象の性質の違いである。自動車教習の受講生の場合、免許を取ってしまえば、極端な例外を除いて、二度と教習所に現れることはない。つまり指導が完結する。大学図書館ではそうはいかない。むしろ第三段階終了が新たな図書館サービスの出発であり、その後足繁く図書館へ現れてくれなければ困る。そこで図書館員の力量が真に問われるのである。もうひとつは、制度の確立である。自動車は免許制度の確立したうに教習内容も方法も確定している。残念ながら、大学図書館の司書職制度は今だに曖昧模糊としている。もちろん利用者教育の内容が自動車教習のように画一的になることは望まない。しかし、制度を固め、その基礎の上に立って専門職集団によるより高い内容をめざしていけたらよいのにと切に思う。いま、思い切った専門職問題の運動の展開が望まれる。次世代の図書館員を養成する図書館学教育の場では、その辺りをどのように考えているのであろうか。

以上の外にも、大学教員と図書館員との関係、「図書館職人」のことなど、少しは記憶に残り感慨を覚えた点もある。今年3月、大図研が職員問題研究集会を準備すると聞いたので、それまでに整理がつくものなら考えてみたいと思わぬでもない。

(さかい・ただし)

第3回京都研究集会（利用者教育）に参加して

京都大学法学部図書室 小林 直子

カウンター業務をしているということもあって、参加しました。このところの利用者教育についての盛り上がりは、目録の機械入力が安定してきたこととネットワーク化など情報技術の益々の発達が背景にあるのでしょうか。

さて、今回の研究集会の目的は利用者教育の意義を正しくとらえ、先進事例に学んで実践することにあります。利用者教育の必要性を図書館員は自覚しているかという問いが討論の時間にあって、サービスを一方的に与えるだけでいいのか（反語）とか、それが図書館員の当然の仕事で有るとか、図書館員がやるべき範疇であるとの力強い意見がたくさん出ました。わたしはそこまで力強く思えなくて、おもしろそうかなぐらいの感覚にすぎませんでした。しかし利用者教育が、わたしの考えていた大学院生向けの専門情報の検索法の講習会のような一時的なつきあいではなくて、最初から最後まで情報リテラシーの発達状況に応じて利用者につきあっていくことなんだとわかったら、なにやら深淵なもののように思えてきました。教員は図書館員が教育へ入り込むことを望むかどうかとか、先生

の反発をかわないようにという意見もできました。京都橘女子大学の例ではしごく協力的でそういう点での苦勞とかあったのでしょうか。あまり感じられませんでした。図書館員が教育へ入り込むことへの抵抗は少なくとも一般的情報探索指導の段階までは、積極的にやる限り、気にしなくてもいいのかもしれませんが。専門的情報探索指導を図書館員がおこなうことを教員がどれくらい望むのか知りたい気もします。

京都橘女子大学の例は、ひとりひとりの動機付けから卒論までの流れがあつて、目的、対象、内容、方法が明確で、学生にも教員にも図書館員にも良い結果になっているようにおもえます。専門的情報指導の中身はいままでの積み重ね（努力？）でしょうか。一度軌道にのると積み重ねていけるからいいですね。京都産業大学の例では、相手にあわせてきめ細かいガイダンスに感心しました。サービス対象者（1万3千名+ α ）の数の多さと人手の少なさが対称的でした。どれだけの人に、どれだけのガイダンスを行おうとすると、どれだけの職員が必要なのか、わかるものなのでしょうか。今のところ人手の足りなさがガイダンスの内容等への問題点となっているようですが。

大阪市立大学の例は医薬系ならでは内容でした。シソーラスの存在感が希薄になっていくことや、ネットワーク化などが問題としてあげられていました。シソーラスの問題など、機械で取り出したものしか読まなくなるのではないかと、ぼんちと答えがでてくるようになれば、過程をおろそかにするのではないかという心配が一般的にあるようです。余り機械を過信しないように教育する工夫が必要なのだろうと思います。ネットワーク化がすすんでエンド・ユーザーの時代になればますます利用者教育は必要となるでしょう。京都精華大学の例では、情報リテラシーを養成する科目があり、利用者を図書館にひきつける（ニーズを作り出す）必要があるということを知りました。

基調報告の最後の最後に述べられてもいましたが、新しい情報技術の活用や、京都橘女子大学のレジュメや大阪市立大学のテキストのようなものを集めるクリアリングハウスの存在など、共通する部分で協同しあうことも利用者教育をやりやすくすると思いました。

(こばやし・なおこ)

第3回大学図書館員京都研究集会に参加して

大阪市立大学附属図書館 片山 理子

ようやく初冬らしい寒さが訪れた11月13日、久しぶりに京都へ出かけた。いかにも大学らしい、落ち着いた同志社大学のキャンパスに、すこし感動。何せ、わが大阪市大では、最近キャンパスのあちこちを工事中で、大型ダンプカーが行きかい、まるで宅地造成地の趣なのである。（その工事のひとつが、いわゆる学情センターではあるが。）

さて、学生時代を過ごしたはずの京都だが、今やすっかり土地勘が鈍り、予想外の遅刻をして会場に滑り込むと、大城先生による基調報告が始まっていた。テーマは、大学図書館における利用者教育：その意義と実状、である。

先生の報告で、最も印象に残ったのは、大学教育の目的の一つは、学生に主体的な批判精神と情報リテラシーを涵養することであって、その情報リテラシーの涵養が、大学図書館における利用者教育の目的であること、また、利用者教育は、図書館だけでなく、教育カリキュラムと一体となつてこそ、その機能もしくは目的を達成できると力説された部分であった。

一方、我が国の現状は、フォーマルな利用者教育の3つの形態、すなわち、1) オリエンテーション、2) 一般的情報探索指導、3) 専門的情報探索指導のうち、2) のレベルさえ行っているところが少ないとのことである。その原因は、先生によれば3つあり、まず、利用者教育を担当する(する余裕のある)司書がないこと、次に、利用者教育の重要性を認識し、内容・方法を理解している図書館員が少ないこと、最後に、教員が図書館員の教育能力を信頼していないことを挙げられた。

途中うなずくこと何度もあり、大変エネルギーを与えられた報告だった。職場の現状は程遠いものがあるが、就職以来、学生に図書館をもっと利用させたいという思いは変わらない。会の後半で議論にもなったが、私自身は、利用者教育やりたいよ、教員を誘惑してやりましょうよ、という気持ちを大切にしていきたいと思った。

昼食休憩をはさんで(天一のラーメンが休みだったのが残念)、参加者4名による事例報告が行われた。

冒頭の京都橘女子大学小川氏は、独特の聴かせる語り口で、卒論をテコにしたガイダンス、教員との協働などを、語って下さった。あとで聞けば、彼は合唱団員とのこと、聴衆を前にすると力が出る体質は、利用者教育を担当する図書館員に不可欠ではなかろうか。

ついで、京都産業大学赤瀬氏は、新入生から教職員まで対象者別に細かく計画された、ライブラリー・ガイダンスの計画表を示され、ガイダンスへの熱意を感じさせられた。

3人目は、我が大阪市大の川西氏、彼の発表をひやかすのが参加目的の一つだったような気もするが、どうやら無難にこなした模様。医学図書館での実践をベースにした、いわゆる専門的情報探索指導として当日唯一の事例で、本人は恐縮していたが、これまで蓄積したものを、大阪市大でいかに普遍化できるか、これからの課題であろう。

最後は、京都精華大学の田口教授から、人文学部という場でさまざまな授業を担当する中、ポピュラーカルチャーに関心を持つ学生にどう対応できるかなど、図書館職員にとって含蓄のある話題をあれこれ提供していただいた。

あっという間に時間は過ぎて、懇親会へなだれ込んだが、利用者ともっとかかわりたいという熱意をどのくらい持っていられるかが、私の当面の命題だと思う。

(かたやま・さとこ)

京都支部報・第3回大学図書館員京都研究集会記録号(118号)販売のご案内

1部100円

∴ 郵送の場合80円切手3枚を同封し、下記宛ご一報下さい。

(申込先) 〒606 京都市左京区吉田牛ノ宮町 京都大学人文科学研究所 堤美智子

大学図書館問題研究会
近畿5支部新春合同例会

ソ連型社会主義の崩壊と
新しい社会への展望

新しい社会を生み出す要因は成熟しつつあるのか？
この問題に対する答は、人間の存続にかかわることです

講師 **置塩 信雄** 先生 (大阪経済大学教授
神戸大学名誉教授)

1927年兵庫県生れ。1950年神戸大学経済学部卒、理論経済学専攻。

著書 「現代資本主義と経済学」岩波書店、1986
「マルクス経済学2」筑摩書房、1987
「現代経済学2」筑摩書房、1988
「経済学」大月書店、1988 (共著)
「経済学はいま何を考えているか」大月書店、1993

1995年1月28日(土) 14:00~16:00

神戸市勤労会館 2階多目的ホール

神戸市中央区雲井通5-1-2 ☎078-232-1881

三宮駅(JR、阪急、阪神、市営地下鉄、ポートライナー)
下車、中央幹線を東へ徒歩5分。中央区役所隣。

★ 二次会 ♥

ドンナロイヤ

18:00~

洒落たイタリア料理の老舗。参加

〒700-1001 神戸市東灘区明海ビルB1

¥8500

申込は下記まで(1/20締切)。

(078-321-3377)

【申込窓口】 昼間 水田健介 0798-54-6227 (関西学院大学理学部図書室)

夜間 山本貴子 078-581-7099